

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

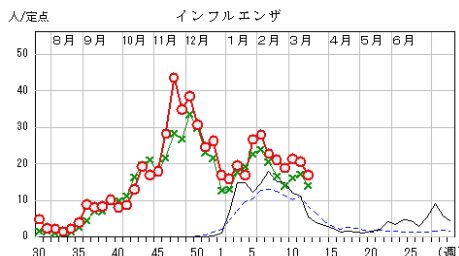
2024年第12週 2024年3月18日（月）～ 2024年3月24日（日） 2024年3月28日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第12週の報告数は1169人で、前週より251人少なく、定点当たりの報告数は16.94であった。

年齢別では、10～14歳（389人）、15～19歳（111人）、7歳（91人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（25.25）、県央保健所（23.10）、県南保健所（22.50）であった。

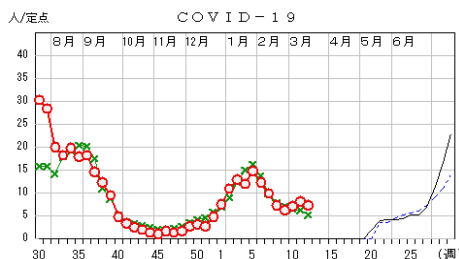


（2）新型コロナウイルス感染症

第12週の報告数は499人で、前週より65人少なく、定点当たりの報告数は7.23であった。

年齢別では、50～59歳（62人）、60～69歳（52人）、40～49歳（51人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（34.00）、上五島保健所（18.67）、県北保健所（7.75）であった。

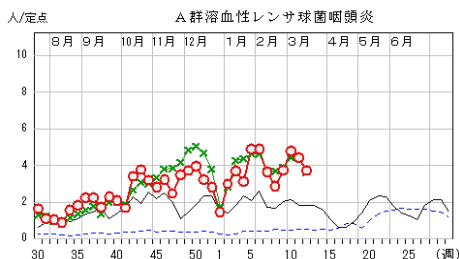


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第12週の報告数は160人で、前週より30人少なく、定点当たりの報告数は3.72であった。

年齢別では、10～14歳（30人）、5歳（19人）、6歳（19人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（16.00）、西彼保健所（3.75）、県央保健所（3.00）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第12週の報告数は1169人で定点当たりの報告数は16.94となりました。2週続けて減少しましたが、依然として、警報レベル終息基準値「10」を上回っており、18週続けて警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別では、県北地区（25.25）、県央地区（23.10）、長崎地区（22.29）は、警報レベルを維持しています。また、県南地区（22.50）、壱岐地区（15.00）、西彼地区（13.17）、佐世保地区（12.73）は注意報レベル基準値「10.0」を超えています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第12週の報告数は499人で、前週より65人少なく、定点当たり報告数は7.23でした。地区別では、対馬地区（34.00）、上五島地区（18.67）、県北地区（7.75）、県南地区（7.50）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第12週の報告数は160人で、前週より30人少なく、定点当たりの報告数は3.72でした。地区別にみると県南地区（16.00）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので、今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

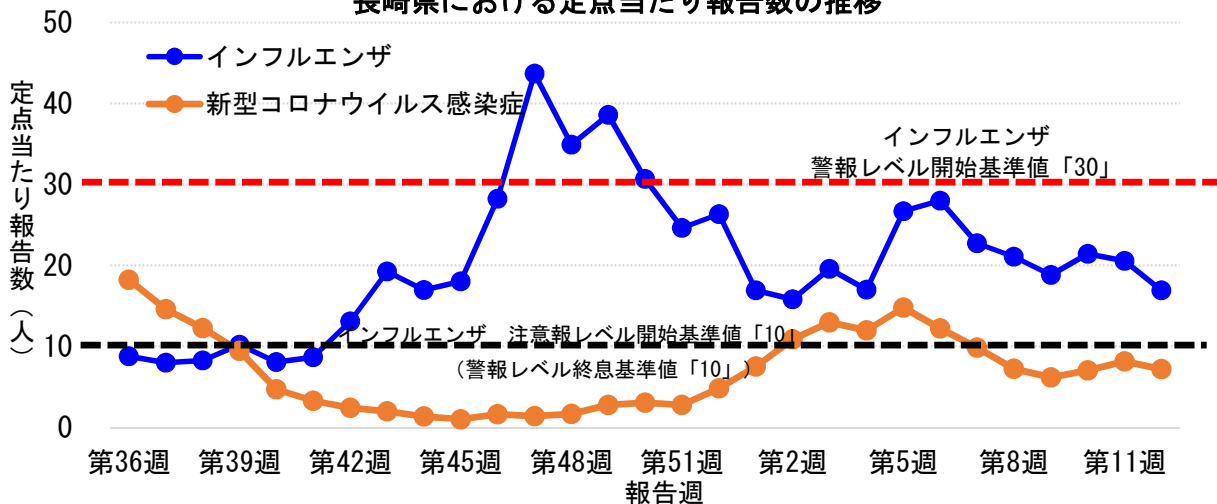
インフルエンザの2024年第12週の定点当たりの報告数は「16.94」で、2週続けて減少しましたが、依然として警報レベル終息基準値「10」を上回っており、2023年第47週（11月20日から26日）以降18週間、警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別にみると、10保健所中3保健所（長崎市、県北、県央）で警報レベル、4保健所（県南、壱岐、西彼、佐世保市）で注意報レベルとなっています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「7.23」で、前週より減少しました。

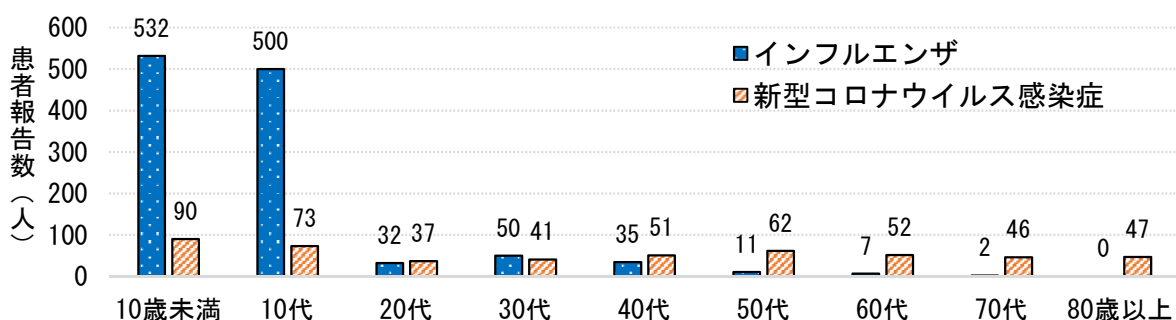
インフルエンザの直近3ヶ月の垂型・系統別の検出状況を見ると、A/H3、A/H1pdm09、B/victoriaの3種類が検出されています。シーズン当初はA型が多く検出されていましたが、11月以降B/victoriaの割合が増加しています。今シーズンは、複数回インフルエンザを発症した症例も報告されています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

長崎県における定点当たり報告数の推移



長崎県における年代別患者報告数



☆トピックス：梅毒の患者数が増加しています

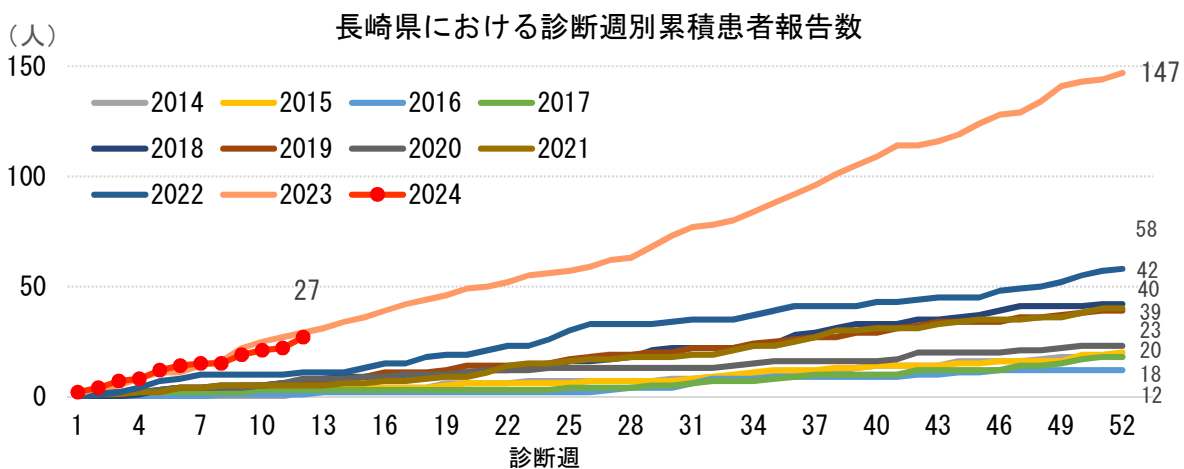
長崎県では2023年に147件の梅毒の報告があり、現行の調査が開始されて以降、過去最多の報告数となりました。2024年は第12週までに27件の報告があがっています。

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

また、妊娠中に梅毒に感染すると、お腹の赤ちゃんに感染し、流産や死産の原因になったり、障害をもって生まれることがあります。妊娠早期に発見、治療すれば赤ちゃんに影響を与える可能性も低くなります。県内では、2024年に妊娠中2名の報告があがっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

発生状況は、[長崎県感染症情報センターホームページ内「梅毒の発生状況」](#)に掲載しています。

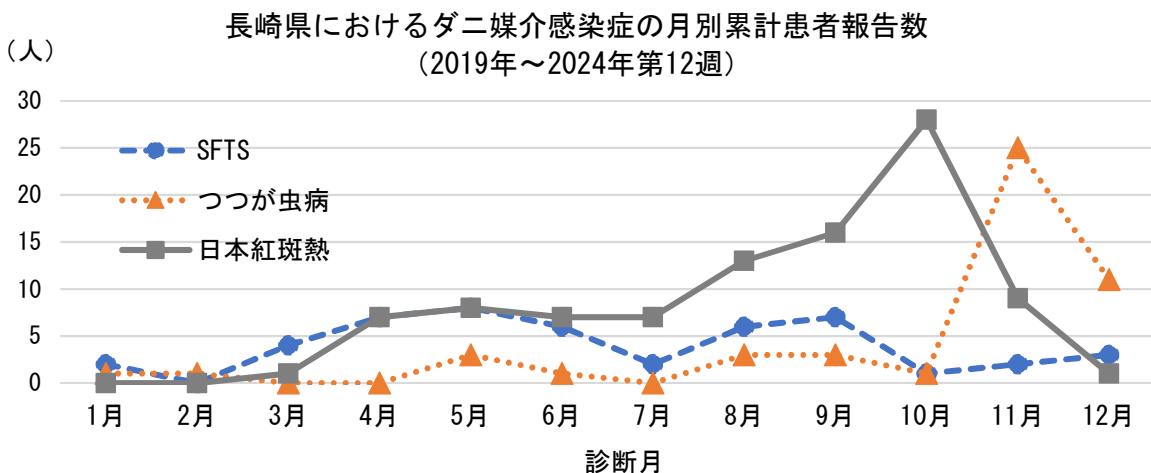


☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

マダニ等の活動が活発になる4月から患者の報告数が増加します。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2024年第12週：3月18日から3月24日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2024年第12週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「7.23」で、前週より減少しました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

※令和6年3月で「新型コロナウイルス感染症の発生状況」の公表を終了します。

新型コロナウイルス感染症の発生状況に関する情報は、今後も「長崎県感染症発生動向調査速報（週報）」に掲載します。

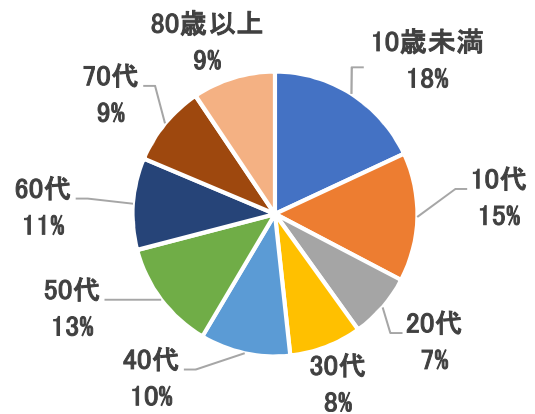
	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	499	99	35	34	63	60	31	9	56	10	102
定点数	69	17	11	6	10	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	7.23	5.82	3.18	5.67	6.30	7.50	7.75	2.25	18.67	3.33	34.00

※県央保健所管内に休診の医療機関があるため、第12週においては、定点数が全体で「69」となっています

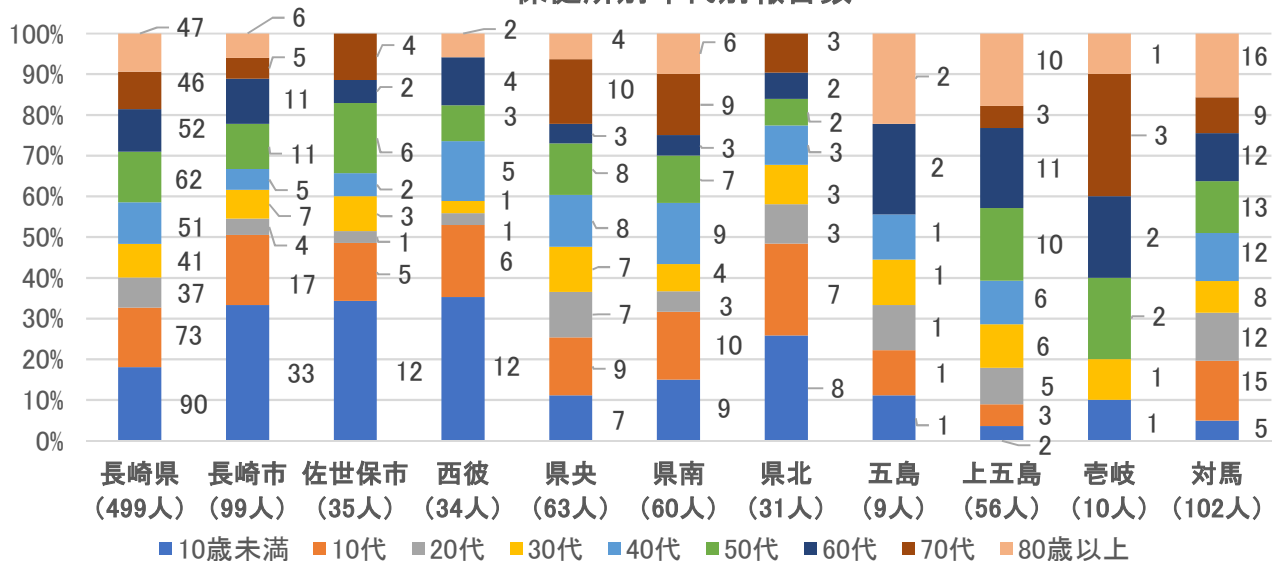
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



注) 年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（70代・1名、80代以上・1名）
3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（10歳未満・2名）
4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 女性（50代・1名）
5類感染症（全数把握対象）：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 男性（70代・1名） 梅毒 患者 男性（50代・1名） 女性（30代・1名） 無症状病原体保有者 男性（50代・1名） 女性（20代・2名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第7～12週、2/12～3/24)

疾患名	定点当たり患者数					
	7週	8週	9週	10週	11週	12週
	2/12～	2/19～	2/26～	3/4～	3/11～	3/18～
インフルエンザ	22.74	21.07	18.83	21.42	20.58	16.94
新型コロナウイルス感染症	9.87	7.26	6.19	7.07	8.17	7.23
RSウイルス感染症		0.12	0.14	0.05	0.21	0.05
咽頭結膜熱	1.00	0.98	1.21	0.93	1.30	0.93
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.64	2.86	3.74	4.79	4.42	3.72
感染性胃腸炎	2.64	3.16	3.88	5.30	4.19	3.37
水痘	0.32	0.05		0.09	0.05	0.07
手足口病	0.23	0.14	0.21	0.42	0.42	0.49
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02				0.02	
突発性発しん	0.23	0.28	0.14	0.35	0.30	0.28
ヘルパンギーナ		0.02		0.07	0.02	
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.07				
急性出血性結膜炎	0.13		0.13	0.13	0.13	
流行性角結膜炎	0.75	0.88	0.63	1.00	1.25	0.88
細菌性髄膜炎					0.08	
無菌性髄膜炎				0.17	0.08	
マイコプラズマ肺炎		0.08			0.08	
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第12週、3/18～3/24) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	16.94	12.73	22.29	15.00	13.17	23.10	22.50	25.25	1.50	0.67	2.00
新型コロナウイルス感染症	7.23	3.18	5.82	3.33	5.67	6.30	7.50	7.75	2.25	18.67	34.00
RSウイルス感染症	0.05		0.10				0.20				
咽頭結膜熱	0.93	0.67	0.30	1.50	0.75	1.33	0.60	4.00	1.00		0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.72	1.83	1.50	2.00	3.75	3.00	16.00	1.67	2.67	2.00	
感染性胃腸炎	3.37	2.67	6.90		4.25	2.83	2.80	1.33			4.00
水痘	0.07		0.10			0.33					
手足口病	0.49	0.17	1.10		1.75			0.67			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.28	0.83	0.20			0.33	0.40	0.33			
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.88						5.00		2.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											